



内視鏡での定期検診で、がんの早期発見・治療を 苦痛の少ない胃・大腸カメラで検診

光生病院

藤原 敬士 先生

日本内科学会所属、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医

内視鏡を使った検査の一番の目的は、がんの早期発見。カメラで直接胃や腸の中を見ることで小さな凸凹や色調の変化（炎症による赤み）などに気付くことができます。早期に発見することで負担の大きい外科手術で

内視鏡で見つかる病気で多いのが胃がん。「昔に比べるとピロリ菌（胃がん等の原因になる細菌）による胃がんは除菌が進み減ってきていますが、今は除菌後の胃がんが増えています。ピロリ菌を除菌すると胃がんの発生率は下がりますが、リスクが完全にゼロになるわけではありません。また、ピロリ菌がすべての胃がんの根源原因では

先端にカメラ等を内蔵したスコープ（細長い管）を口や鼻などから挿入することで、映像を見ながら検査や治療・処置を行える医療機器「内視鏡」。光生病院・内視鏡センターの藤原敬士先生に内視鏡（胃カメラ・大腸カメラ）の役割について伺いました。

◇

内視鏡で治療するのではなく、内視鏡で治療することもできるそう。「胃カメラや大腸カメラの検査といえば、苦しい、しんどいというイメージを持つ方も多いですが、鼻から入れられる細いスコープ（直径約5㎞）を使用したり、鎮静剤を使用したりして、苦痛の少ない検査を行っています」と藤原先生。

カメラで直接確認することで小さな変化も見逃さない

一方で、除菌後・未感染の人も胃カメラで定期的に検査をすることが大切です」と話します。

一方、大腸カメラでの検査を受ける一番のきっかけとなるのは便秘。「便秘や潜血陽性の場合には様子見ではなく内視鏡での検査が必須。検便で1回でも陽性が出たら医療機関を受診してください」とのこと。「胃や腸はもちろんですが他の臓器の検診も重要。バランスを考えながら定期検診を受けましょう」

問い合わせ

社会医療法人 光生病院
岡山市北区厚生町3-8-35

☎ 086-222-6806

<https://www.kousei-hp.or.jp/>

光生病院

検索

山陽新聞・OHKの生活情報紙

さりお SALIO

2023/12/26掲載